

今秋流行しそうな牛の流行性感冒

昭和 24 年から 26 年にかけて、全国的に流行して有畜農家に大きな被害を与えた牛の流感が、今年は大流行しそうな気配をみせています。昨年はずで、関東・東海・近畿・四国・九州と全国的に発生をみ、中国地方でも隣接の広島・山口・島根各県に出しており、10 年前の流行の経験から今年の秋には本県にも侵入必至とみられています。

また今回流行のものは、昭和 20 年代に流行したものと異り、初期には感染を見分けることが仲々困難で、斃死率も高いと云われています。そこでこれに備えて、和牛や乳牛飼育農家の方々の参考に、昨年各地で流行した状況から、その特徴や、注意点について簡単に述べてみることにします。

1. 発生の時期

別表 1 のとおり 8 月から 12 月までとなっていますが、多くは 9 月に始まり、10 月 11 日が多く、発生時期別の型は、丁度昭和 26 年のものを 1 ヶ月遅らせたような、10 月が鋭いピークになった山型を示しています。

2. 発生率、死亡率

昨年の流行のものの発生率は、総頭数に対して 2% 程度のもので、昭和 25、6 年の約 20% に較べると非常に低い数字を示していますが、死亡率の点では逆に患ったもののうち全国平均で 10% (4 千頭) 中国地方 9% のものがへい死しています。このことは病気の症状が相当に異っていることを示しており、病原体となる流感ウイルスの型も異つ

ています。また昨年までのところ発生率が低かったからといって、今年も発生が少いとは一概に云えないようです。

3. 発生畜の傾向

性別及び年令による発生の状況は、昭和 24 年の例ではオスやヌキよりメスの方が発生率が高く、また 34 年の流行では、乳牛より和牛の方がかかりやすかったとも云われています。年令別では、2 才から 6 才までのものが多いようで、福岡県では若い牛に多く発生し、哺乳中の牛はこれまでかからなかったのに今回のものでは発生をみえています。

4. 症状

症状については、今回のものの外見上現われるものについて簡単に挙げてみると、別表 2 のとおりですが、25、6 年流行のものは、前駆症状がはっきりしていたので見逃すことはなかったが、今回のものは、これらの症状が殆んど見付けられない位で、熱も左程高くなく、突然咽喉頭麻痺を起して重い症状におちいるものが多いので、飼育農家の方は発生の時期に入る 8 月の後半頃からは、日常の飼養管理には特に注意して、早く発見するように努めていただきたいと思えます。

別表 1 牛の流感発生状況

区分	発生期間	時期別発生頭数					飼養頭数 (34.2.1)	発生率	死亡頭数	致死率	
		8月	9月	10月	11月	12月					計
島根	11.13~				63		63	71,960	0.09	5	7.94
広島	9.30~11.25		32	538	820		1,390	118,920	1.17	124	8.92
山口	9.26~10.22		29	182			211	81,030	0.26	19	9.01
中国地方計			61	720	883		1,664	271,910	0.61	148	8.89
全国計		317	4,661	25,623	7,859	616	39,076	1,990,174	1.96	4,041	10.34

5. その他

このように早期発見が大切ですが、そのためには普通の牛の食欲、水飲みや健康の状態を常によく注意しておき、できれば発生時期になれば毎日体温を

計るのがよい方法です。また、食欲が続いて悪い、眼が腫れたり涙を流す、涎をたらすなどの症状が見えたりすれば早めに獣医師に診断を受けるようにして下さい。

別表 2 昨年流行の牛の流感（様）疾患の症状

前駆症状	特に認めるべきものなし。	麻痺症状の経過	前駆期と考えるべき食欲不振があつて7日前後の発症するものが多い。
発熱	病初 40°C 以下の発熱（一過性）他の症状発生前に 40°C 以上の発熱を認めたものもある。	関節浮腫	大部分に認められる。
眼結膜	浮腫，充血，腫脹（中国以東のものに著明）	跛行	中等度の跛行を認める。
流涙	必ず認められる。	圧痛	関節部の圧痛を認める。
眼球の突出	眼瞼の浮腫高度のものと眼球突出の感を呈するものもある。	鼻鏡	充血，出血，腫脹，爛斑，痂皮の形成，乾燥しているものもある。
口粘膜及び歯肉部	口唇内側内部に水泡，爛斑点状，出血，痂皮を認める。	舌	点状出血，爛斑を作るものもある。
流涎	認められるが多いものは少い。また流涎なく口内が乾燥するものあり。	鼻汁	水様性の鼻汁が認められる。
食欲	廃絶する。回復に向うと共に青草を少量ずつ採食する。	咽喉頭部浮腫	認めるも軽度のもの多し。
飲欲	食欲はあるが嚥下困難一度飲み下してもやがて選出する。	反芻	停止
下部食麻痺	大部分のものに認められる。	下痢	下痢をするものがあり甚だしいものは血便
		便秘	多くは便秘を認める。